

# 福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況

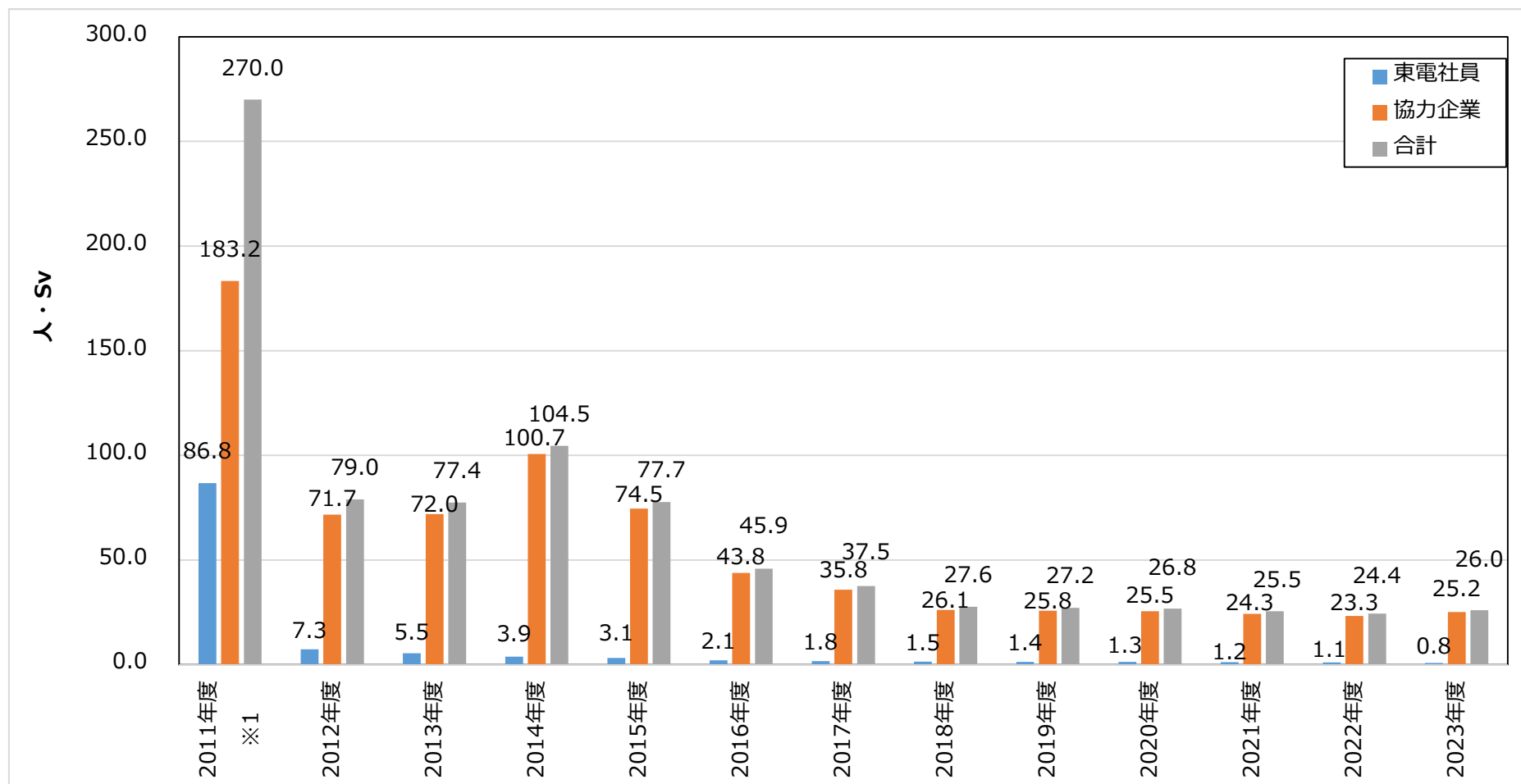
2024年6月14日

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

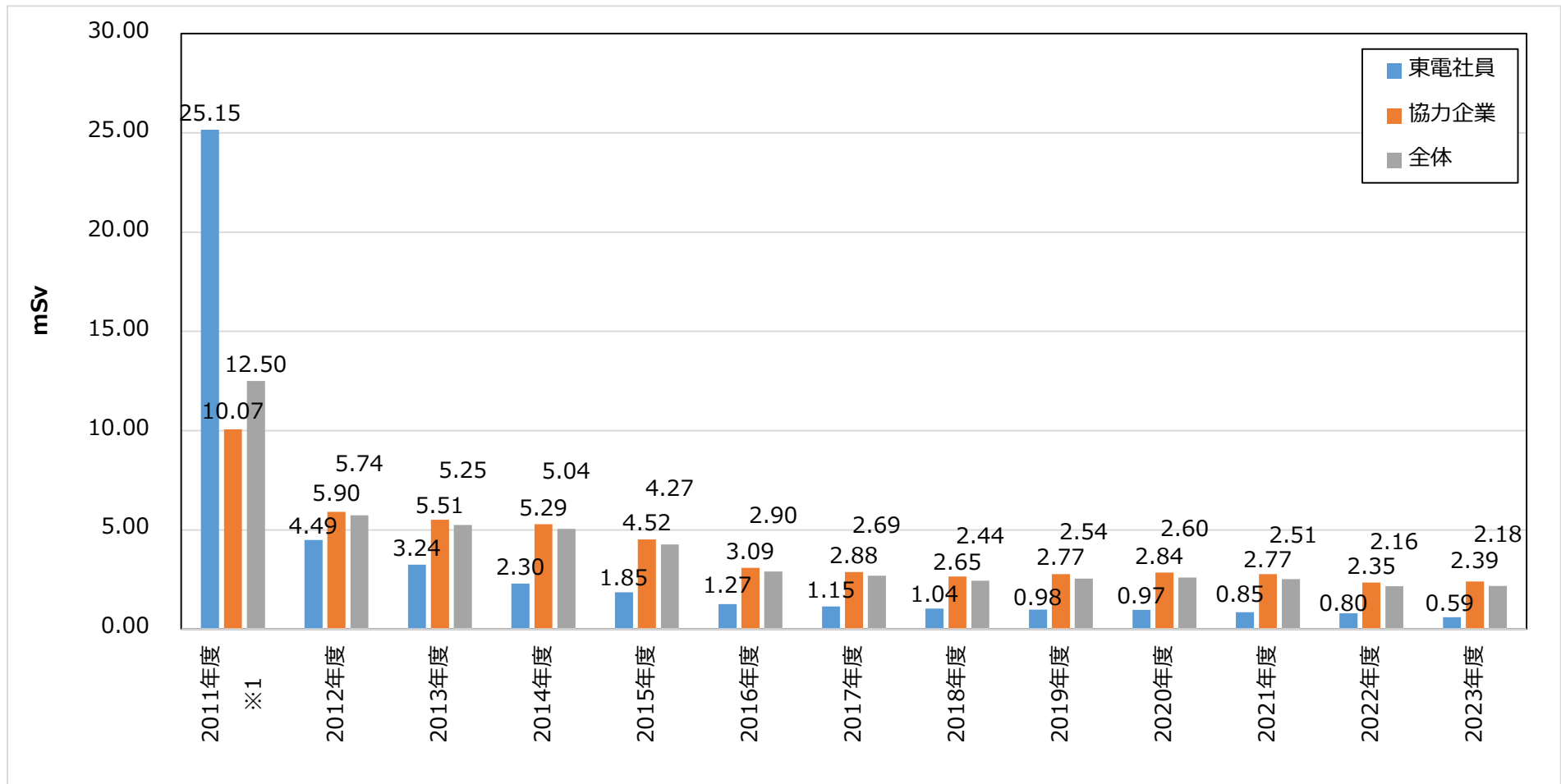
- 前年度同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

## ②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）

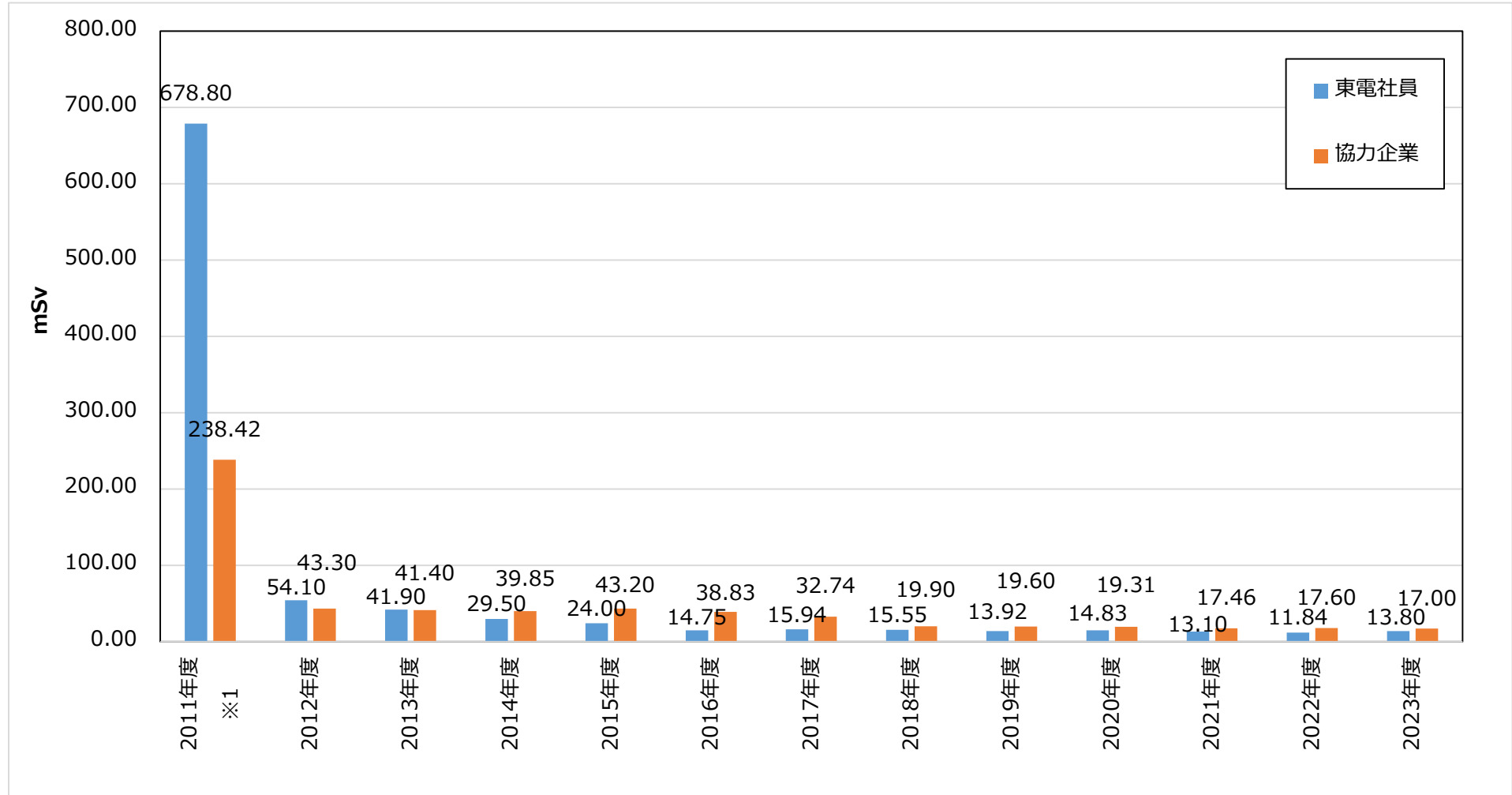
- 前年度同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

### ③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）

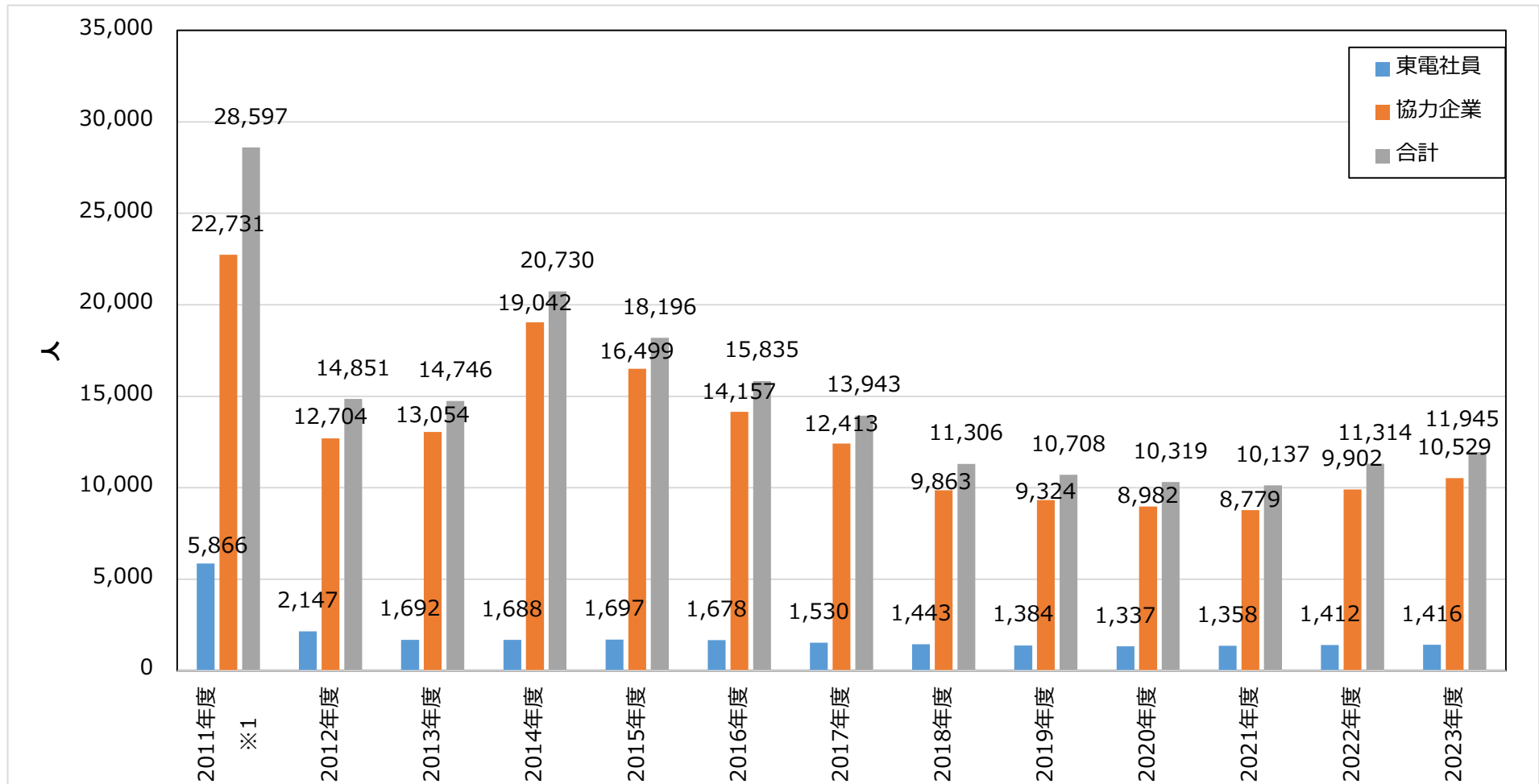
■ 前年度同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

## ④発災以降の年度別放射線業務従事者数

■ 前年度同時期と同程度となっている。



※1：2011年度は2011年3月を含む

## ⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2023年度

区分(mSv)	2023.4月～2024.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	5	809	814
5超え～10以下	26	1,135	1,161
1超え～5以下	178	2,137	2,315
1以下	1,207	6,448	7,655
計	1,416	10,529	11,945
最大(mSv)	13.8	17.0	17.0
平均(mSv)	0.59	2.39	2.18

○2023年度（2023.4月～2024.3月）に作業実績のある11,945人のうち

11,945人（100%）は50mSv以下

11,945人（100%）は20mSv以下

9,970人（83.5%）は5mSv以下

○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

## ⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

区分(mSv)	2021.4月～2024.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	1	1
20超え～50以下	22	993	1,015
10超え～20以下	55	1,689	1,744
5超え～10以下	106	1,576	1,682
1超え～5以下	358	2,647	3,005
1以下	1,212	7,840	9,052
計	1,753	14,746	16,499
最大(mSv)	31.12	50.82	50.82
平均(mSv)	1.79	4.94	4.60

○2021.4～2024.3に作業実績のある16,499人のうち

16,499人 (100%) は100mSv以下

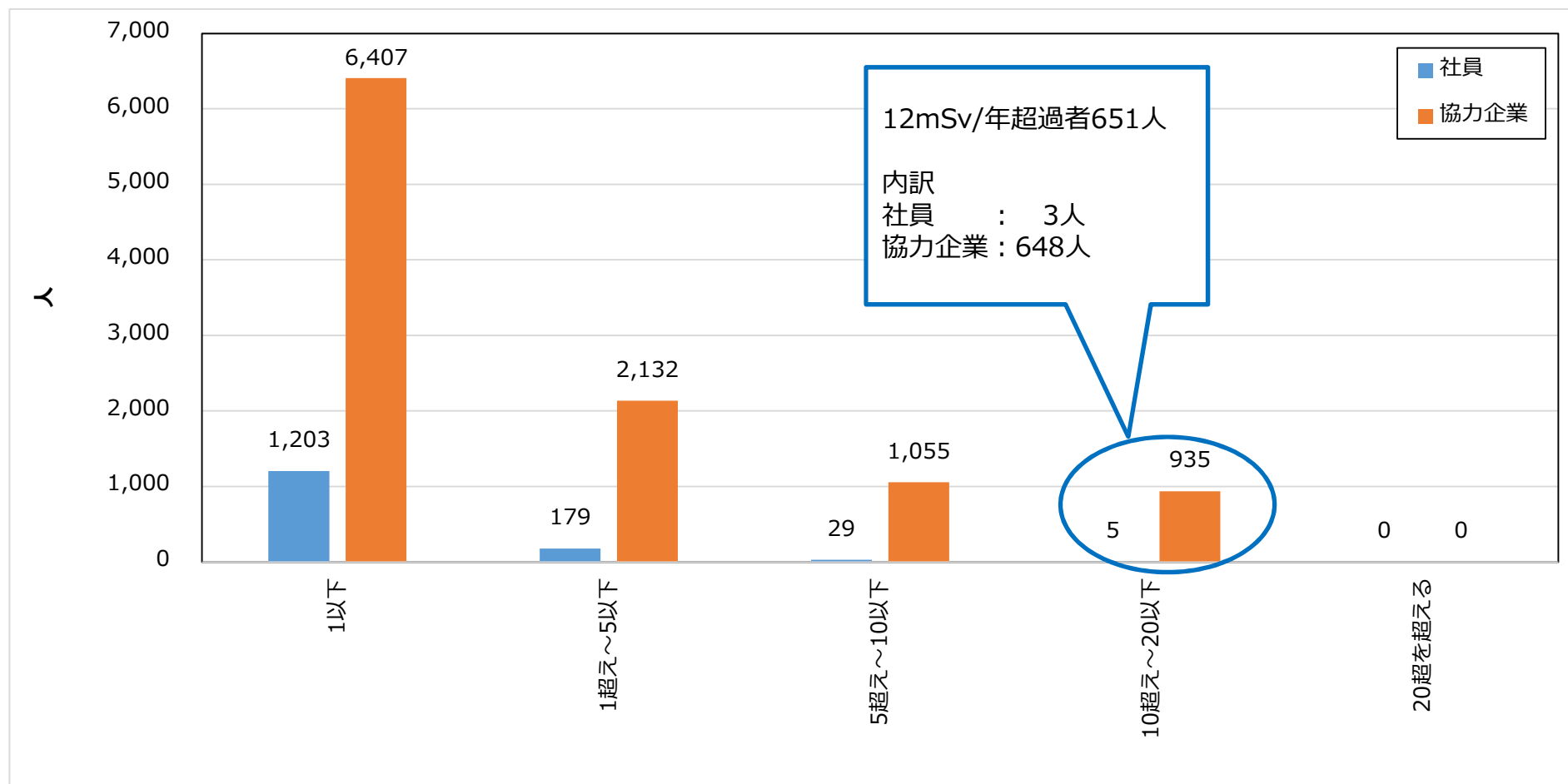
16,498人 (99.9%) は50mSv以下

15,483人 (93.8%) は20mSv以下

○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

## ⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2023年度）

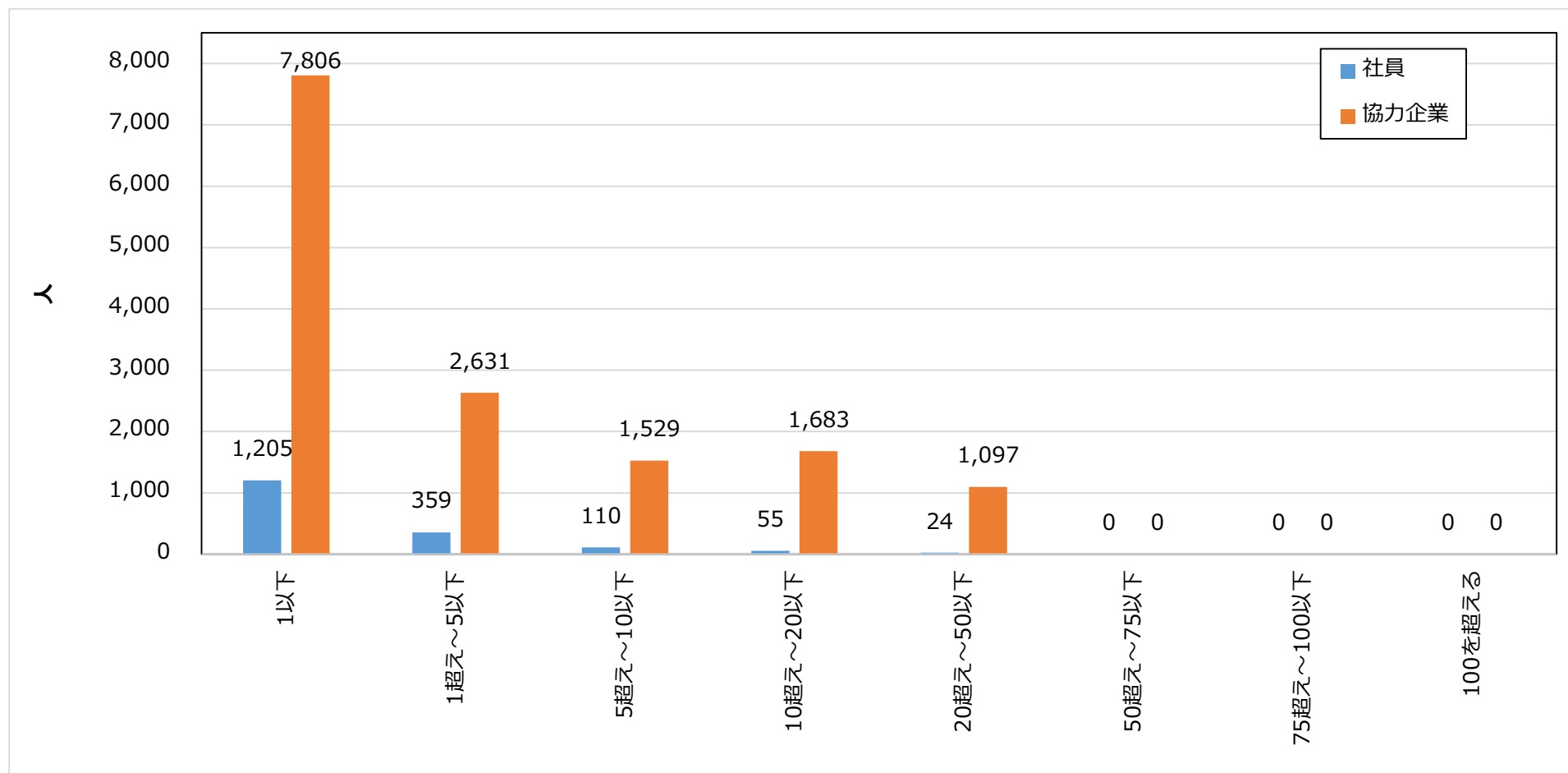
- 2023年度3月の眼の水晶体の最大線量は、18.1mSv。
- 全ての作業者について眼の水晶体の等価線量は、線量限度内(50mSv/年)で管理。
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定を開始している。





## ⑧2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間の累積等価線量分布

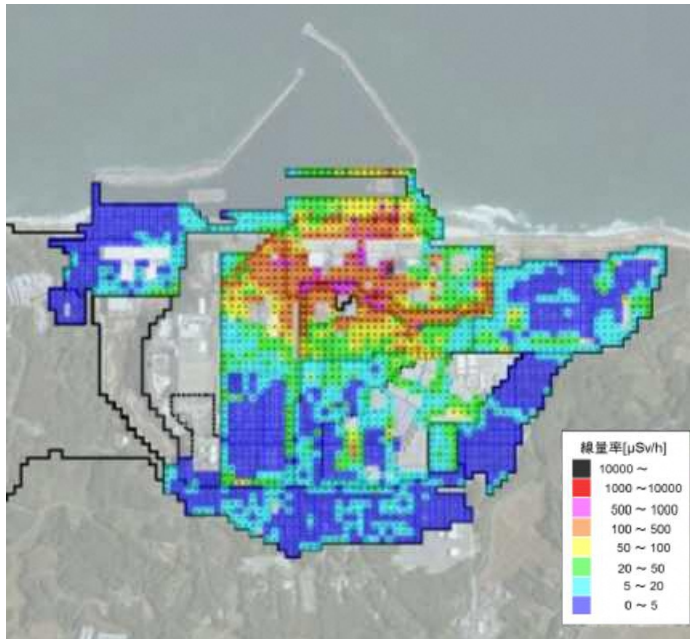
- 2021年4月1日を始期とする眼の水晶体5年間累積等価線量の最大線量は、50.00mSv。
- 全ての作業者の眼の水晶体の等価線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。



## ⑨環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。  
2023年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2023年度

